

The Sinfonietta  
19th Concert

See you 20th Concert !

The Sinfonietta 19th Concert

ザ・シンフォニエッタ  
第19回演奏会

2005年2月13日(日)  
午後2時30分開演(午後2時開場)  
熊本県立劇場コンサートホール

主催:ザ・シンフォニエッタ  
後援:熊本市、熊本市教育委員会、  
NHK熊本放送局、RKK、FMK、熊本日日新聞社

## Program

●モーツァルト

W.A.Mozart

### 交響曲第31番 二長調 kv.297(300a)「パリ」

Symphony No.31 in D major K.297(300a) "Paris symphony"

●カバレフスキー

D.Kabalevsky

### 組曲「道化師」

"The Comedians" suite Op.26

— 休 憩 —

●ベートーヴェン

L.v.Beethoven

### 交響曲第4番 変ロ長調 op.60

Symphony No.4 in B<sup>b</sup> major Op.60

指揮：藤崎 凡

管弦楽：ザ・シンフォニエッタ

## ごあいさつ

本日は、私共ザ・シンフォニエッタの演奏会にお越し頂きまして誠にありがとうございます。

皆様方の暖かいご支援を賜り、私共の演奏会も19回目を迎えることができました。今回は、モーツァルトとベートーヴェンという古典派の有名な作曲家の交響曲の間に、旧ソ連の作曲家カバレフスキーの作品を演奏するというプログラムを組みました。どの作曲家の作品もそうですが、今回のカバレフスキーのものも作曲された時代を反映したもので、独特の表現が要求されます。馴染みのある前後二人の作曲家との違いをお楽しみいただけたと思います。ベートーヴェンの交響曲第4番は彼の9曲の交響曲の中では第3番「英雄」と第5番「運命」の間にはさまれてあまり目立たない存在ですが、決して他の曲に比べて劣るものではなく、随所にベートーヴェンらしさを湛えた力作です。過去に一度演奏していますが、派手さが少ないこともあって、まとめるのが非常に難しい作品でもあります。

指揮者の藤崎氏には、今回も丁寧なご指導をいただき、オーケストラとして少しずつ表現の幅を広げることができるようになっていくことに感謝しています。

本日の演奏会においていただいた皆様にご満足頂けますよう、心をこめて演奏いたしますので、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

2005年2月13日

ザ・シンフォニエッタ 代表 清 永 健 介

## Profile

### 藤崎 凡 (ふじさき ぼん)



1957年東京生。慶應義塾大学文学部を卒業後、桐朋学園大学音楽学部にてオーケストラ研究生（指揮専攻）として入学。在学中指揮を秋山和慶、小澤征爾、尾高忠明、高階正光、J・フルネの各氏に、ピアノを池田素子氏にそれぞれ師事。1986年3月に同課程を修了。同年宮城フィルハーモニー管弦楽団（現・仙台フィルハーモニー管弦楽団）の指揮者オーディションに合格し、演奏活動を開始。1988年にはアメリカのタングルウッド・ミュージックセンターに留学、L・バーンスタイン、G・マイヤー等のクラスで研鑽を積む。帰国後は創設間もないオーケストラ・アンサンブル金沢に招かれて多くのコンサートを指揮するとともに、新しいオーケストラの基盤づくりに貢献。その後群馬交響楽団と約3年間ほど子供のためのコンサートを行なったほか、2000年までは洗足学園大学、同魚津短期大学の講師も務めた。2004年から洗足学園大学講師（オーケストラ）現在は各地のオーケストラ、オペラ、合唱団に招かれて多くのコンサートを行う一方、各地でクラシック音楽の普及のためのアートマネジメントやコンサートプロデュースにも積極的に取り組んでいる。

<http://homepage3.nifty.com/bon-nobuko/>

## ザ・シンフォニエッタ

1986年に結成された小編成のアマチュア・オーケストラ。この数年は継続して藤崎凡氏の指導を受けており、そのほかこれまでに山下一史、安永徹、篠崎史紀、小野富士の各氏をはじめとする、素晴らしい音楽家の指導を受けながら、常に演奏の質の向上を目指して一生懸命活動を続けている。

月2回の合奏の練習と随時のパート練習を行いながら、8～10ヵ月の間隔で熊本県立劇場での演奏会を行うほか、スクールコンサート等の活動を行っている。

ザ・シンフォニエッタホームページ <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~sinfonie>

## 曲目紹介

### モーツァルト 交響曲31番 “パリ” (ニ長調 K.297)

ザルツブルグの宮廷音楽家(国家公務員上級職)の職を辞したモーツァルトは、1777年(21歳)～79年(23歳)にかけて転職・リクルート活動の為マンハイム＝パリ旅行に新天地を求め旅立ちました。しかしながら当時の音楽新興都市マンハイムでの失恋や78年7月には同行していた母が滞在先のパリで妖死するなど、この旅はモーツァルトにとって“音楽的に得たもの”と“精神的に失ったもの”ともに大きな旅となったようです。

こんな背景の下で当時パリにおける比較的大編成のオーケストラの支配人からの依頼で書かれた交響曲が、第31番“パリ”です。この交響曲は、前作の交響曲30番(k.202、1774年)からは4年間の空白があり、夭逝の作曲家モーツァルトにしては最も長い交響曲の空白期の後の作品になります。楽器編成はクラリネットを含んだ初めての完全2管編成で、華麗な効果で当時のパリの聴衆の受けを期待したようであり、事実、彼の書簡からも初演時には大変な拍手喝采を受けたようです。

本日我々が演奏する“パリ”についても、聴衆の皆様は当時のパリの聴衆になったつもりで随時、拍手喝采していただいてもかまいません。

#### 第一楽章 モルト アレグロ

母親の死の時に書かれたとは思われない荘厳・華麗さをお聴きください。

#### 第二楽章 アンダンテ

依頼人の要請で翌月改訂されているが本日の演奏は初版での演奏です。

#### 第三楽章 アレグロ

冒頭、8小節のVnによるシンコペーションのテーマのあとの突然の*f*。この後は拍手喝采禁止解除区間です。

### カバレフスキー 組曲“道化師” 作品26

作曲家ドミトリー・カバレフスキー(1904年～1987年)は、旧ソビエト連邦を代表する現代作曲家の一人です。カバレフスキーの作品は明快なメロディー、リズムカルな作風で子供のための作品も多く、今回演奏する“道化師”も、1938年に児童劇『発明家と道化師』のために作曲した劇音楽の中から10曲を抜粋し組曲としたものです。

今回ザ・シンフォニエッタが“道化師”の練習に入るまで、私のこの曲に対するイメージは正直いって上記のような「子供のための作品」、「運動会でよく流される曲」程度のものでした。しかし、練習が始まり指揮者から要求される音の一つ一つにより、このイメージは180度違うものとなってきたのです。“道化師”の華やかな厚化粧を皮剥くと、その下には引きつったインテリゲンチユアの顔があり、更にもう一皮剥くと、ロシアの母なる大地や人々の悲哀や喜びが悲しいまでに見事に浮かび上がってきます。こんな世界を子供のための作品に託するとは、本当に凄い曲です。

#### 1. プロローグ

さあ、児童劇団旅回り一座の始まりです

#### 2. 道化師のギャロップ

運動会では必ず流れる曲。子供連れの方は、お子様の手を離さないように

#### 3. マーチ

通常の軽快なマーチとは一味、二味違います

#### 4. ワルツ

奈落の底に静かに落ちてゆく死の舞踏?

#### 5. パントマイム

道化師の壮絶な無言劇。さあ、厚化粧の下は?

#### 6. インテルメッツォ

児童劇団の幕間です

#### 7. リトル・リリカル・シーン

旅回り一座の哀切たる抒情詩

#### 8. ガボット

操り人形のダンス?

#### 9. スケルッツォ

均整のとれた見事なコサックダンス

#### 10. エピローグ

さあ、一座総出演で舞台も軋む!

(文責: Vc 東家)

### ベートーヴェン 交響曲第4番 変ロ長調 作品60

ベートーヴェンは生涯に9曲の交響曲を作曲し、そのいずれもがすばらしい故に「不滅の9曲」等と呼ばれることがあります。もちろん交響曲を作曲したのは、他にもたくさんいますし、傑作と言われる作品も、多く存在します。それなのにベートーヴェンの交響曲が、他に増して素晴らしいと言われているのは何故でしょうか。

ベートーヴェンの作品は、簡潔明瞭であり、力強く、しっかりとした構成力を持っています。決して緩慢なところがなく、ひとたび音楽が始まれば、終わるまで、聞く人を退屈にしません。加えて、9曲の性格がそれぞれに異なり、ベートーヴェンという人の多くの姿を聞く事が出来るのです。このことは、1つの作品の中についても言え、実に多くの姿が1曲の中に込められているのです。従って、私達は、時には重々しく、時には軽やかに、また、時には悲劇的に、また時には壮大な歓喜の中に、また、ある時には勇ましく、ある時には可憐な姿を聞く事が出来るのです。

ベートーヴェンの先達が、イタリア風序曲から交響曲を作っていたのに対し、彼は管弦楽によるソナタ形式の大曲、という考えを持って作曲に当たりました。またベートーヴェンに続く諸作曲家は、誰もが、交響曲を作曲する際に、ベートーヴェンの作品を手本にしましたし、交響曲以外の分野で活躍した、例えばワグナーなども、ベートーヴェンの交響曲を綿密に研究した、というように、後生に多大なる影響を与えたのでした。ベートーヴェンの交響曲は、全世界で演奏され続けられています。まさに不滅の9曲と言えるでしょう。

さて、本日演奏いたします交響曲第4番は、有名な第3番や第5番の間にあって、どちらかと言えば地味な存在になります。作曲に費やした期間も比較的に短いとされていますが、

よく練られた、堂々とした響きを持つ交響曲です。変口長調という調性からも、明るく、まろやかな響きを持っています。そして、この曲に感じられるロマンチズムは、シューマンやメンデルスゾーンが特に好んだと言われていますが、後のロマン派の先駆けになるような曲でもあるようです。特に当時新興楽器として登場したクラリネットと、おそらくベートーヴェンが好きであったろうファゴットを存分に用いた作品です。はじけるような生命力と、夢を見るかのように美しい世界を、聞く人に与える名作です。

**第1楽章 アダージオ 4分の4拍子 アレグロ ヴィヴァーチェ 2分の2拍子  
変口長調**

この曲は長い序奏で始まります。最初は調性のはっきりしない、何か手探りの感じがする響きの中で曲が進み出します。転調の末に変口長調の響きにたどり着きアレグロのテンポの部分に入っていきます。分散和音と木管の下降音型からなる第1主題と、木管楽器が主体となって奏される軽やかな第2主題が提示されます。展開部は第1主題部分を中心として繰り広げられていきます。流れるようなメロディーとリズムカルな部分とが絡み合いながら緊張したピアノから徐々にクレッシェンドをかけていき、全合奏のフォルテで再現部に入ります。高らかなホルン5度の響きを持ってこの楽章が終わります。

**第2楽章 アダージオ 4分の3拍子 変ホ長調**

美しい、ロマンの響きに充ちた曲です。第1主題は弦楽器による下降音階ともいえるものなのですが、これが素晴らしく美しいのです。全合奏の後に現れる第2主題は、クラリネットによる長いソロで、これにファゴットやホルンが柔らかい響きで続いていきます。夢を見るような美しい響きが特徴なのですが、時としてティンパニのソロが出てきたり、とオーケストレーションの面でも興味深い楽章です。

**第3楽章 アレグロ ヴィヴァーチェ トリオ ウンポコ メノアレグロ  
4分の3拍子 変口長調**

メヌエットともスケルツォとも書かれていませんが、スケルツォの楽章です。ただ、第3交響曲とは異なって、幾分メヌエットに近いゆったりとした響きがします。弦楽器と木管楽器が交互に主題を受け渡ししながら力強くリズムカルなスケルツォ部分が進んでいきます。トリオの部分は木管楽器が主体となって、素朴でなだらかなメロディーを奏でていきます。この後スケルツォ、トリオ、スケルツォと繰り返します。最後は2本のホルンに導かれ、主として変口音の音を響かせて終わります。

**第4楽章 アレグロ マノン トロップ 4分の2拍子 変口長調**

弦楽器によるめまぐるしい動きが特徴的な楽章です。この弦楽器の細かい動きは、強大な推進力となって、この楽章を最後まで導いていくのです。木管楽器によって、伸びやかな第2主題が奏され、また展開部の部分でも木管楽器による特徴的なところがあるのですが、それも、根底に弦楽器の16分音符のパッセージが働いているのです。更に、この速い動きをファゴットが受け継ぎ、この曲にアクセントを与えています。ファゴットの難曲として名高い部分です。この推進力を持って、この交響曲を明るく、そして力強く締めくくります。

(文責：Ob 橋)

## 出演者名簿

■コンサートマスター

大宮 伸 二

■第1ヴァイオリン

浦 中 有 紀  
清 永 健 介  
定 永 明 子  
瀬 畑 健 雄  
谷 口 博 文  
東 家 容 子  
益 田 久 美  
山 口 修 史

■第2ヴァイオリン

大 宮 協 子  
岡 本 侑 子  
清 永 育 美  
武 智 久 子  
多 賀 美 紀 ※  
丁 睦 美  
中 島 悦 子  
廣 瀬 卓

■ヴィオラ

和 泉 希代子  
太 田 由美子  
田 代 典 子  
辰 野 陽 子 ※  
中 澤 康 子  
山 下 純 子

■チェロ

石 垣 博 志 ※  
関 栄  
瀬 畑 むつみ  
東 家 隆 典  
裕 本 幸 二

■コントラバス

井 形 友 子 ※  
田 中 真 紀  
歳 田 和 彦  
中 川 裕 司 ※

■フルート・ピッコロ

泉 由貴子  
中 澤 邦 男

■オーボエ

橋 徹  
松 本 聡 子 ※  
吉 田 千 草

■クラリネット

岡 村 ク ミ  
府 高 明 子

■ファゴット

柴 田 義 浩  
星 出 和 裕

■ホルン

伊 藤 友 美  
川 崎 華 奈

■トランペット

出 口 文 教  
福 島 敏 和

■トロンボーン

寺 本 昌 弘 ※

■チューバ

府 高 隆 ※

■ティンパニ

福 島 好 ※

■パーカッション

大 迫 貴 子 ※  
田 中 集 子 ※  
森 野 照 美 ※  
山 中 美 雪 ※

■ピアノ

篠 原 い ず み ※

※は賛助出演

次回の「ご案内」

## ザ・シンフォニエッタ第20回演奏会

と き 2006年3月5日(日)  
と ころ 熊本県立劇場コンサートホール  
指 揮 山下 一史  
ピ ア ノ 若林顕・合志知子  
曲 目 モーツァルト／2台のピアノのための協奏曲  
メンデルスゾーン／交響曲第5番「宗教改革」 ほか